

V-N 型漢語動詞の自他 —N の意味の限定化をめぐって—

張善実

名古屋大学大学院国際言語文化研究科

zhang.shan-shi@b.mbox.nagoya-u.ac.jp

1. はじめに

(1) ～ (3) の漢語動詞はいずれも「NをVtする」([]で示す。以下同様) という他動詞の格関係を持っている。しかし、各漢語動詞それぞれの自他性を見ると、(1)の「休学する」はヲ格をとって他動詞文を作ることができるのに対し、(2)の「挙式する」はヲ格をとって他動詞文を作ることができない。一方、(3)の「失明する」は他動詞文も自動詞文も作ることができる。

(1) 花子が大学を休学した。 [学校を休む]

(2)a *花子が結婚式を挙式した。 [式を挙げる]

b 花子が挙式した。

(3)a 太郎が左目を失明した。 [明りを失う]

b 左目が失明した。

本発表では「休学する」、「挙式する」、「失明する」のように、他動詞的要素「Vt」と名詞的要素「N」から構成された「V-N型漢語動詞」(以下、「VtNする」)の自他性を決める要因について、「N」の意味が限定されているか否かにあることを見る。

2. 先行研究

影山(1980:180)は「大学に入学する」、「新聞代を集金する」、「近くの病院に入院する」などの例をあげ、「複合動詞内部の名詞が外部表示の名詞と上位語の関係にある」と述べている。

また、小林(2004:94)は「VNする」の「VN」が項¹を取るかどうかという観点から、「VN」を以下の3つに分けている。

① 項を取れないタイプ：飲酒、挙式、処刑、……

② 項を取れるタイプ：投票、登山、入院、……

③ 項を取らなければならないタイプ：開封、観戦、除名、……

⇒小林(2004)は「VN」が項を取るか取らないか、また、項を取る場合、「VN」の「N」と項とがどのような意味的關係にあるのかについて検証したものである。しかし、「VNする」を①～③

¹ ここでは「VNする」全体の項を指す。(「手紙を開封する」の「手紙」、「富士山に登山する」の「富士山」、「松の葉が変色した」の「松の葉」など)

に分類するに留まり、なぜそのように分類できるかについては言及していない。

3. 「VtNする」の意味特徴

一般に、複合語の意味は必ずしも構成要素の総和で説明できるわけではない(湯本(1977)、影山(1993)、斎藤(1996)、小林(2004))。例えば、「挙式する」はいかなる式の場合にも使えるわけではなく「結婚式」に限定されている。

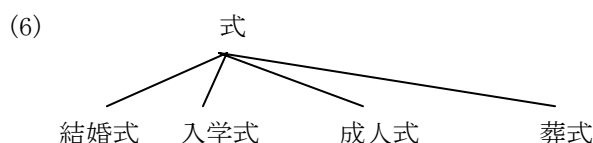
本研究では、「VtNする」の「N」が一つに限定される場合は自動詞として使われ、「N」が一つに限定されない場合は他動詞として使われることを明らかにする。

3.1 「N」の意味が一つに限定される場合

はじめに、「VtNする」の「N」の意味が一つに限定された場合、「VtNする」全体は自動詞となることを指摘する。まず、「N」の意味が一つの低位概念に限定された場合を見ていく。

(4) 二人は明治神宮で挙式した。

(5) *二人は明治神宮で結婚式を挙式した。



通常、「式」には「結婚式」のほかに「入学式」、「成人式」、「葬式」なども含まれるが、「挙式」の場合には「結婚式」に限定される。そのため、(4)のようにヲ格を伴わない自動詞用法として使われ、わざわざ「結婚式を」と言うと(5)のように非文となる。

このように「VtNする」の「N」の意味が一つに限定される場合、「VtNする」全体は自動詞として使われる。ほかに(7)のような例がある。

(7) *結婚を求婚する。 [結婚を求める]

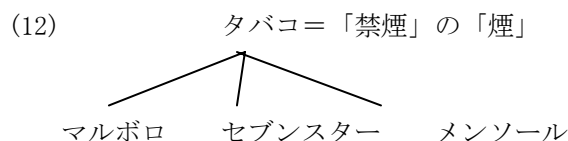
(8) *メスを執刀する。 [メスを執る]

(9) *寄付金を募金する。 [寄付金を募る]

次に、「VtNする」の「N」が一つの上位概念に限定された場合、「VtNする」全体で自動詞用法となる現象について考察する。

(10) 太郎は禁煙して一年になる。

(11) *太郎はマルボロを禁煙して一年になる。



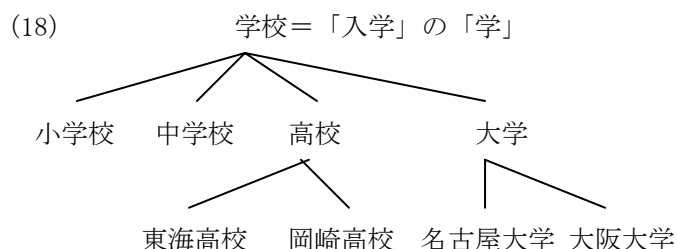
(12)に示したようにタバコには「マルボロ」、「セブンスター」、「メンソール」などの種類が含まれているが、「禁煙」というと、すべてのタバコを引っ括めて表す。このタイプにはほかに以下のような動詞が挙げられる。

- (13) *マルボロを喫煙する。 [タバコを吸う]
 (14) *ビールを飲酒する [酒を飲む]
 (15) *ビールを禁酒する [酒をやめる]
 (16) *洋食を断食する [食物を断つ]

3.2 「N」の意味が限定されない場合

次に、「VtNする」の「N」の意味が限定されない場合、「VtNする」全体は他動詞となることを指摘する。この場合、次のように「N」の下位概念がヲ格で表される。

(17) 花子が名古屋大学を休学した。



「休学する」は「学校を休む」という格関係で成り立っている。しかし、「休学する」は「学校を休む」とは違い、発熱などで数日間臨時に学校を休む場合には使えず、病気や留学などのため所定の手続きを経て一定期間学校を休むことを指す。よって、「休学する」自体の意味は限定されている。しかし、「休学」の「学」は(18)で示したように種々の下位概念を持っているため、それをヲ格で表すことができる。このような動詞は、「休学する」のほかに以下のようなものがある。

- (19) ワールド・カップを観戦する。 [試合を観る]
 (20) 寝たきりの父を看病する。 [病人を見る]
 (21) 管理職を辞職する [職を辞する]
 (22) 死刑を求刑する [刑を求める]

4. まとめと今後の課題

本発表では「VtNする」自他性を決める要因の一つとして「Nの意味の限定化」を取り上げて考察した。その結果、「挙式する」、「飲酒する」のように「VtNする」の「N」の意味が一つに限定される場合は自動詞として使われ、「休学する」、「観戦する」のように「N」の意味が限定されない場合は他動詞として使われることを見た。

参考文献

- 影山太郎(1980)『日英比較 語彙の構造』松柏社
- 影山太郎(1993)『文法と語形成』ひつじ書房
- 小林英樹(2004)『現代日本語の漢語動名詞の研究』ひつじ書房
- 斎藤倫明(1996)「語構成と意味の関わり—「単純化」という形態論のプロセス—」『国文学解釈と教材の研究』41-11, pp. 28-35
- 松岡知津子(2010)「「名詞+する」表現の意味範囲」『広島大学日本語教育研究』20, pp. 1-7
- 湯本昭南(1977)「あわせ名詞の意味記述をめぐって」『東京外国語大学論集』27, (松本泰丈編(1978)『日本語研究の方法』に再録)